

平成19年3月期決算説明会 ～ 決算短信補足資料 ～

平成19年6月11日(月)
石光商事株式会社
(証券コード:2750 JASDAQ)

目次

- . 平成19年3月期 決算の概況
- . 平成20年3月期 通期の見通し
- . 中期的展望
~ 「THE GLOBAL FOOD MERCHANDISER」 を目指して ~
- . 参考資料
~ 会社概要、売上高概況(単独) ~

. 平成19年3月期 決算の概況

常務取締役 管理部門長兼経営企画室長
久保 潤一

1. 当決算(連結)のポイント

売上高

前期比は微増(+0.5%)。「その他」を除くコーヒー飲料・食品の売上は+19億円(+6.0%)
「その他」の機械・機器輸出と繊維製品が減少(繊維製品は前期末で事業閉鎖)
により期初予算には未達。

営業利益

前期比、減少(28.6%)

売上総利益の減少(前期比 0.3%) 原料高・円安によるコスト上昇・競争激化による利益率の低下
販管費の増加(前期比+2.6%)

経常利益

前期比 57.9%と大きく減少

持分法投資利益も大幅減少(前期比 130百万円、 82.6%)

特別損益

特殊要因

・特別利益・・・未払金戻入益 150百万円

(未払金に計上していた立退料債務の時効期日が、当期において経過したため)

前期はクーポンワップ解約益921百万円計上の為、前期比大幅減少。(784百万円)

当期純利益

前期比(76.5%)と 大幅減少

2. 平成19年3月期決算(連結)の概要



石光商事株式会社

実績と前期比

(百万円)

	17年3月期	18年3月期	19年3月期 期初予想	19年3月期 実績	増減率	
					前期比	予想比
売上高	34,166	35,457	36,707	35,638	0.5%	-2.9%
売上総利益	4,836	4,142	4,732	4,131	-0.3%	-12.7%
販売管理費	3,776	3,764	3,826	3,861	2.6%	0.9%
営業利益	1,059	378	905	269	-28.6%	-70.2%
持分法による 投資利益	316	158	130	27	-82.6%	-78.8%
経常利益	1,356	695	995	292	-57.9%	-70.6%
特別利益	3	940	—	155	-83.5%	—
特別損失	834	58	—	0	-98.7%	—
当期純利益	416	970	609	228	-76.5%	-62.5%
E P S (円)	52.07	121.43	76.24	28.55	-76.5%	-62.6%
R O E	6.2%	13.3%	—	2.9%	-78.2%	—

3. 品目別売上高(連結)

品目別売上高(連結) 前期比増減と主要因

(単位:百万円)

	平成18年3月期		平成19年3月期			
	売上高	前期比	売上高		前期比	
			金額	構成比	金額	増減率
コーヒー生豆	4,614	19.5%	4,780	13.4%	166	3.6%
飲料製品 及び原料	4,322	7.3%	4,699	13.2%	377	8.7%
常温食品	8,611	-0.2%	8,908	25.0%	297	3.5%
冷凍食品	8,502	6.5%	9,184	25.8%	682	8.0%
食品原料	6,987	7.7%	7,436	20.9%	449	6.4%
小計	33,037	6.6%	35,010	98.2%	1,973	6.0%
その他	2,420	-23.8%	627	1.8%	1,792	-74.1%
売上高合計	35,457	3.8%	35,638	100.0%	180	0.5%

増減の主要因

コーヒー生豆 ↑
 販売単価上昇により増加

飲料製品及び飲料原料 ↑
 RCコーヒーバッグ
 紅茶原料 増加

常温食品 ↑
 食品輸出 イタリア食品 増加

冷凍食品 ↑
 冷凍水産品・調理加工品増加

食品原料 ↑
 栗・トマト加工品増加
 小豆加工品減少

その他 ↓
 繊維製品(輸入)事業閉鎖
 機械機器(輸出) 減少

主要商品の売上高概況(単独)については、末尾ご参考資料(P26～P30)をご覧ください。

4-1. 利益増減の要因(原料高の影響)



売上総利益率推移(連結)

品目別	売上高 (百万円) H19-3	売上総利益率		前期比	利益率増減の主要因	
		H18-3	H19-3			
コ-ヒ-生豆	4,780	非開示		4.94%	➡	高値水準で推移するもH16年秋以降の高騰局面からのタイムラグ要因が収束し回復基調
飲料製品 及び原料	4,699			-0.87%	➡	原料高値推移コストアップの価格転嫁遅延 量販店向け年間契約、価格改定進行
常温食品	8,908			-0.64%	➡	産地高:中国産缶詰(人民元高、人件費、容器、ポジティブリスト制導入による影響)、減産による高騰、イタリア食品(橄榄油)
冷凍食品	9,184			-2.21%	➡	・原料高・世界的な水産物需要の増加により ・抗生物質検査費用負担の増大
食品原料	7,436			-1.51%	➡	産地高:農産物は前年暴落・海外作付減産による原料高(たまねぎ、かぼちゃ)、競争激化により価格は下押し トマト加工品
その他	627			6.58%	➡	-
合計	35,638			11.68%	11.59%	-0.09%

4-2. 利益減少の要因(為替レート推移と円安影響)



石光商事株式会社

当社決済レート推移

	H19年3月期	H18年3月期	前期比
US \$	116.28	111.83	4.45
EUR	136.99	136.39	0.60

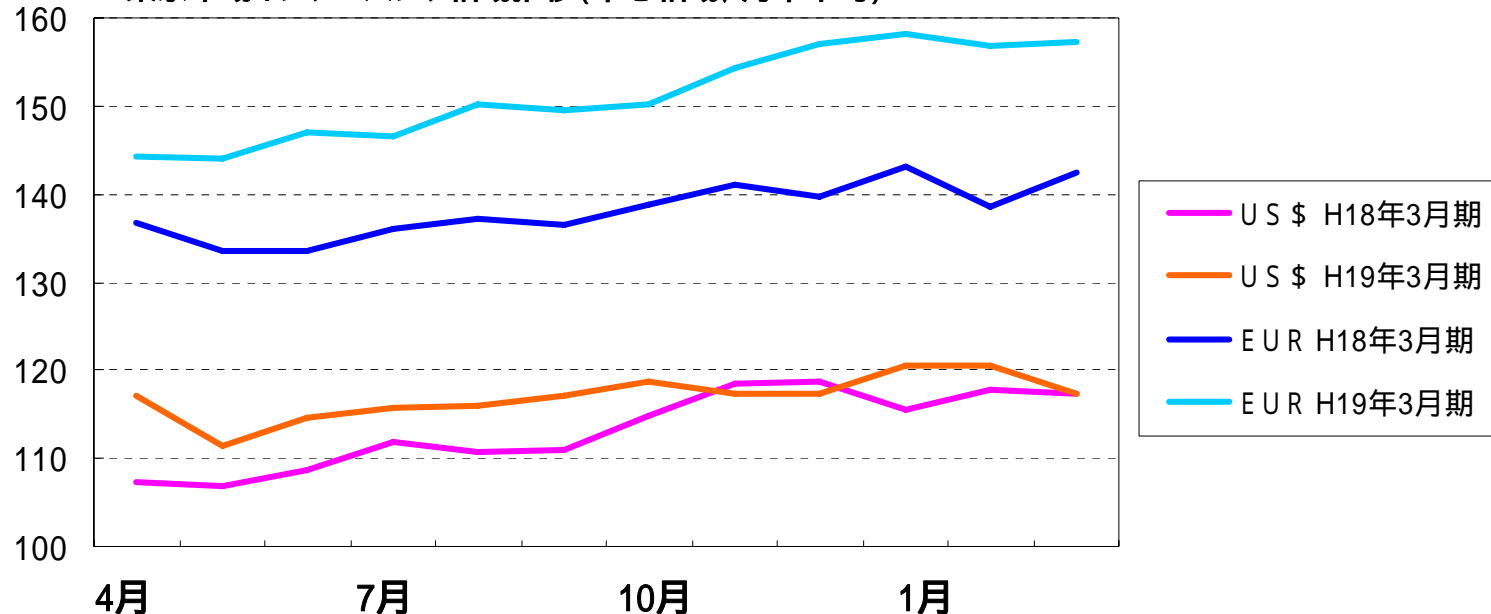
円安影響額 (百万円)

	前期比
US \$	448
EUR	3
合計	452

東京市場インターバンク相場(中心相場、月中平均)

	H19年3月期	H18年3月期	前期比
US \$	116.94	113.26	3.68
EUR	151.26	138.12	13.14

(円) 東京市場インターバンク相場推移(中心相場、月中平均)



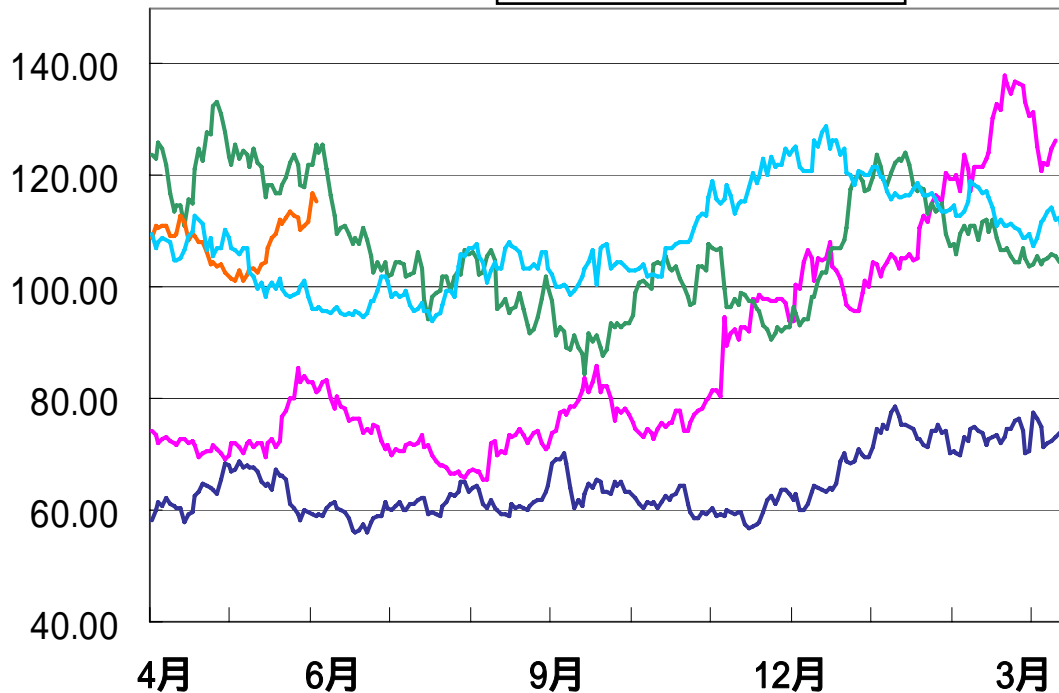
(出所) 日本銀行HP公表レート

4-3. コーヒー製品への影響 (NYコーヒー相場)



石光商事株式会社

(セント/ポンド)
(1ポンド 0.453Kg)



ニューヨーク先物期近銘柄
終値 月平均推移(セント/ポンド)

	H16年3月期
期中平均	64.65

	H17年3月期
期中平均	86.22

	H18年3月期
期中平均	106.68

	H19年3月期
H18/4月	108.17
5月	102.67
6月	96.55
7月	97.82
8月	104.77
9月	102.78
10月	104.55
11月	115.50
12月	124.12
H19/1月	119.25
2月	116.15
3月	111.33
期中平均	108.45

	H20年3月期
H19/4月	108.24
5月	106.97

(出所)ニューヨーク商品取引所 先物期近銘柄

5. TACRの業績推移

東京アライドコーヒーロースターズ(株)



石光商事株式会社

・持分法投資利益は、前年同期比 約 80%

(コーヒー相場高値推移・円安による原料コストの上昇、減価償却費負担が収益に影響)

実績と前年同期比

(百万円)

	平成16年12 月期	平成17年 12月期	平成18年 12月期	対前期 増減率	平成19年12 月期予想	対前期 増減率
売上高	8,638	8,922	9,280	4.0%	9,000	-3.0%
当期純利益	740	427	69	-83.7%	102	46.7%
当社持分比率	38.01%	39.64%	39.64%	-	39.64%	-
当社持分法に よる投資損益	266	158	27	-82.6%	40	46.7%
持分変動によ る投資損益等	50	-	-	-	-	-
投資損益合計	316	158	27	-82.6%	40	46.7%

6. 連結貸借対照表 概要



石光商事株式会社

(百万円)

科目	H18年3月	H19年3月	増減	科目	H18年3月	H19年3月	増減
流動資産	11,316	12,245	928	流動負債	7,108	7,050	57
現金及び預金	1,684	1,901	216	仕入債務	2,890	3,537	646
売上債権	5,648	5,808	160	借入金	1,911	1,943	31
たな卸資産	3,664	4,328	663	その他	2,306	1,570	736
その他	318	207	111	固定負債	2,506	3,447	941
固定資産	6,241	6,220	20	長期借入金	1,772	2,739	967
有形固定資産	2,665	2,651	14	その他	733	707	25
無形固定資産	16	13	2	負債合計	9,615	10,498	883
投資その他の資産	3,559	3,556	3	少数株主持分	201		
				資本合計	7,742		
				資本金	623		
				資本剰余金	357		
				利益剰余金	6,657		
				その他有価証券評価差額金	109		
				自己株式	4		
				負債・資本合計	17,558		
				純資産		7,967	
				資本金		623	
				資本剰余金		357	
				利益剰余金		6,685	
				自己株式		4	
				評価・換算差額等		100	
				少数株主持分		210	
資産合計	17,558	18,466	907	負債純資産合計		18,466	

・期末日休日要因による増加
 売上債権 160百万円 仕入債務 646百万円

・たな卸資産の増加 663百万円
 ・長期借入金の増加

自己資本比率	44.1%	42.0%	-2.1%
--------	-------	-------	-------

7. 連結CF計算書 概要



石光商事株式会社

(百万円)

	平成17年3月期	平成18年3月期	平成19年3月期
営業活動によるCF	389	499	428
投資活動によるCF	221	2	117
フリーCF	611	502	545
財務活動によるCF	713	636	794
換算差額	10	17	28
現金及び現金同等物の増減額	113	117	219
現金及び現金同等物の期首残高	1,603	1,716	1,599
現金及び現金同等物の期末残高	1,716	1,599	1,819
仕入債務の増減額	83	161	646
たな卸資産の増減額	936	3	663
手形割引高	1,224	700	890

・平成20年3月期 業績見通し

常務取締役 管理部門長兼経営企画室長
久保 潤一

8 . H20年3月期通期見通しの前提

売上高

1. 前期比 6.5% 増加
2. コーヒー飲料・・・'コーヒ-バッグ'等'コーヒ-製品'・茶原料増加
常温食品・・・缶詰(原料高)、イタリア食品
冷凍食品・・・輸入水産加工品・輸入調理加工品の増加

利益面

1. 販売価格改定等により徐々に利益回復
2. 販管費は最小の増加にとどめ営業利益を増加させる
3. 持分法投資利益は引き続き、苦戦(+12百万円)

9. 業績予想(連結)



石光商事株式会社

(百万円)

	平成19年3月期			平成20年3月期		
	実績	前期比		予想	前期比	
		金額	増減率		金額	増減率
売上高	35,638	180	0.5%	37,957	2,319	6.5%
売上総利益	4,131	11	-0.3%	4,655	523	12.7%
販売費及び 一般管理費	3,861	97	2.6%	3,937	75	2.0%
営業利益	269	108	-28.6%	717	447	165.8%
持分法による 投資利益	27	131	-82.6%	40	12	46.7%
経常利益	292	403	-57.9%	689	396	135.7%
当期純利益	228	743	-76.5%	387	159	70.0%
E P S(円)	28.55	92.88	-76.5%	48.53	19.98	70.0%

H19-3期配当実績 20円

H20-3期 配当予想 15円

10. 業績予想(連結 品目別)



冷凍食品・輸入水産加工品・輸入調理加工品が増加の予想

(百万円)

	平成19年3月期実績				平成20年3月期予想			
	売上高		前期比		売上高		前期比	
	金額	構成比	金額	増減率	金額	構成比	金額	増減率
コーヒー生豆	4,780	13.4%	166	3.6%	4,570	12.0%	210	-4.4%
飲料製品 及び原料	4,699	13.2%	377	8.7%	5,153	13.6%	453	9.6%
常温食品	8,908	25.0%	297	3.5%	9,628	25.4%	720	8.1%
冷凍食品	9,184	25.8%	682	8.0%	10,280	27.1%	1,096	11.9%
食品原料	7,436	20.9%	449	6.4%	7,863	20.7%	427	5.7%
小計	35,010	98.2%	1,973	6.0%	37,497	98.8%	2,486	7.1%
その他	627	1.8%	1,792	-74.1%	460	1.2%	167	-26.6%
合計	35,638	100.0%	180	0.5%	37,957	100.0%	2,319	6.5%

11. (予想)利益増減の要因(原料高の影響)



売上総利益率推移(連結)

品目別	売上高 (百万円) H20-3予	売上総利益率		前期比	利益率(予想)増減の主要因
		H19-3	H20-3 予想		
コ－ヒ－生豆	4,570	非開示		➡	・普及品 プレミアム商品 利益重視への転換 ・高付加価値商品の拡大を行う
飲料製品及び原料	5,153			➡	・原料高が一段落、値上げ順次すすんだ ・今後は、前期に費やしたそのエネルギーを商品 価値の向上へ
常 温 食 品	9,628			➡	減産による原料価格の大幅上昇見込み 原料高騰に応じた価格転嫁を行い利益率アップ イタリア食材
冷 凍 食 品	10,280			➡	水産・価格改定をすすめる 調理加工品 顧客のニーズに合せた商品作り
食 品 原 料	7,863			➡	・引き続き、米ドル高と中国元高で輸入品原価が上昇も 豊作で輸入品原価が下降する品目もある予想 ・ポジティブリスト制度に対応、残留農薬検査費用負担 増を吸収し、利益率の回復に
そ の 他	460			➡	－
合 計	37,957	11.59%	12.26%	➡ 0.67%	－

・中期的展望

～「THE GLOBAL FOOD MERCHANDISER」を目指して～

代表取締役 社長
森本 茂

12. 平成19年3月期の反省

営業利益が大幅に減少

営業利益	H18-3期	H19-3期	前年比	
	378百万円	269百万円	前年比	28.6%
(当社単独	245百万円	126百万円	前年比	48.6%

✓ 原因

1. コストアップを価格に転嫁できなかった
2. 売るべき商品が計画通り伸びていない

✓ 検証

1. 商品自体の価値があるか？
2. 商品の価値を伝えきれているのか？

私たちの仕事はマーケットから求められているか？

13-1. 私たちの仕事 ~ コーヒー飲料部門 ~

コーヒー産地



研究開発室 検査機器 LC / MS / MS
(液体クロマトグラフ / タンデム質量分析装置)



カップテスト



茶園・ティーバッグ工場(スリランカ)

13-2. 私たちの仕事 ~ 食品部門 ~



石光商事株式会社



野菜畑/中国



エビ検品/ベトナム



冷凍調理加工品・製造工場(中国)



展示会/東京



講習会/東京

14. ビジネスモデルの検証

食品業界が抱える問題点

当社の方向性

- ・世界市場での食料不足と調達競争激化
- ・円安によるコストアップ

- ・サプライヤーとの総括的な取り組み強化とコラボレーション
- ・顧客との関係強化

- ・小売業の統合によるバイイングパワーアップ
- ・業界の構造変化

- ・専門性の深耕
- ・顧客に対する提案力、支援力の強化

- ・少子高齢化、人口減少による食の需要減
- ・安全や品質に対する消費者の厳しい要求
- ・企業の社会的責任の重視

- ・海外への販路拡大
- ・研究開発室を中心とした品質重視の企業風土作り
- ・コンプライアンス重視の会社経営とCSRの意識付け

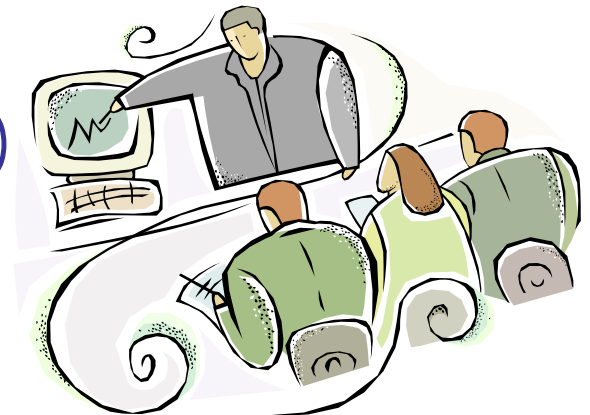
15. 実行のために

問題点

1. 競争力の低下した商品
2. 価値ある商品の提案力不足
3. 単独では善戦も、展開力に欠ける
4. 各チームの連携が弱い

対策

- ・既存商品の見直し(商品のスクラップアンドビルドの必要性)
- ・人間力 / 組織力 UP
 - ☑ マーチャンダイザー制度(社内資格)
 - ☑ チームリーダー教育



16. 中期経営計画の骨子



石光商事株式会社

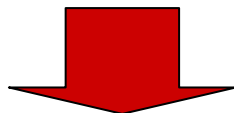
中期経営計画 平成20年3月期 ~ 平成22年3月期

最終年度(平成22年)数値目標	売上高	405億円
	経常利益	11億円

H20-3期 強固な組織作り(人財育成と組織活性化)

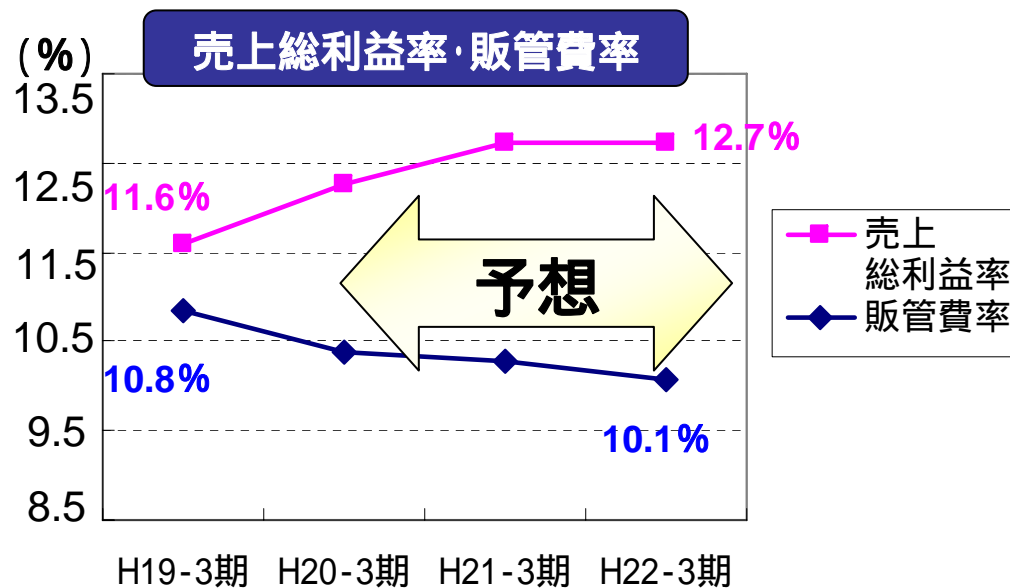
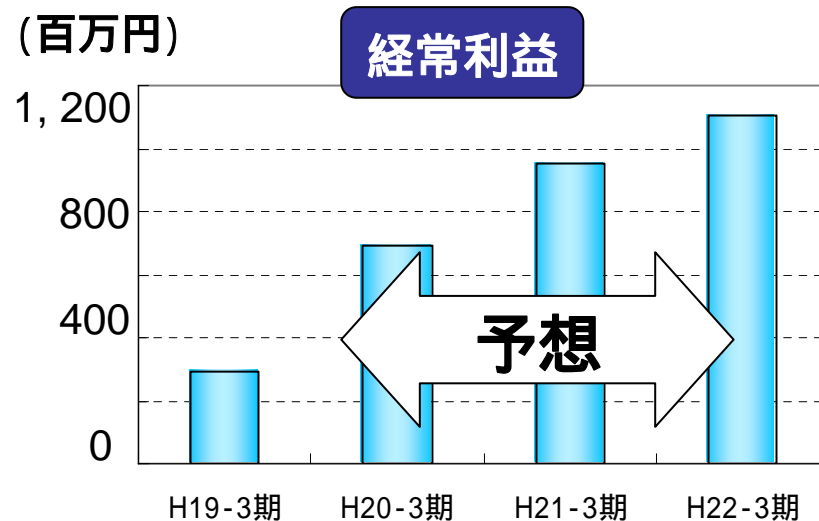
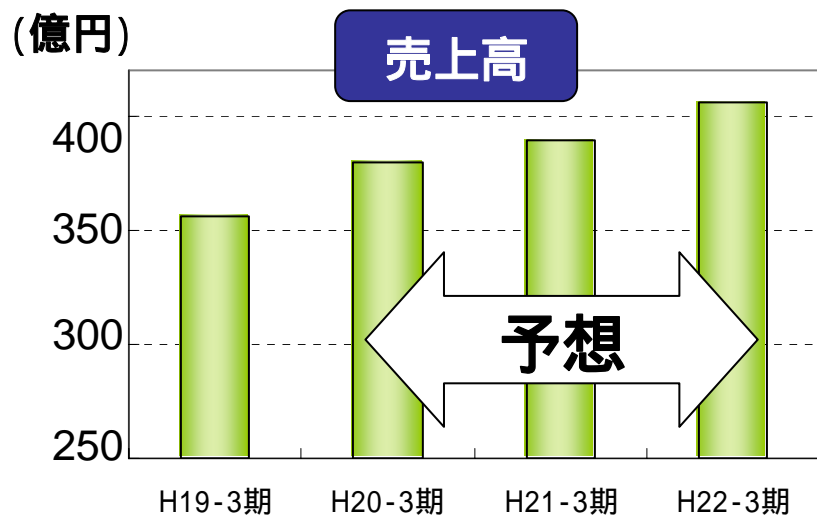
H21-3期 顧客・社会との信頼関係向上(品質重視・利益視点)

H22-3期 グループシナジ-の追求と海外事業拡大(規模拡大)



「THE GLOBAL FOOD MERCHANDISER」の実現

17. 中期目標



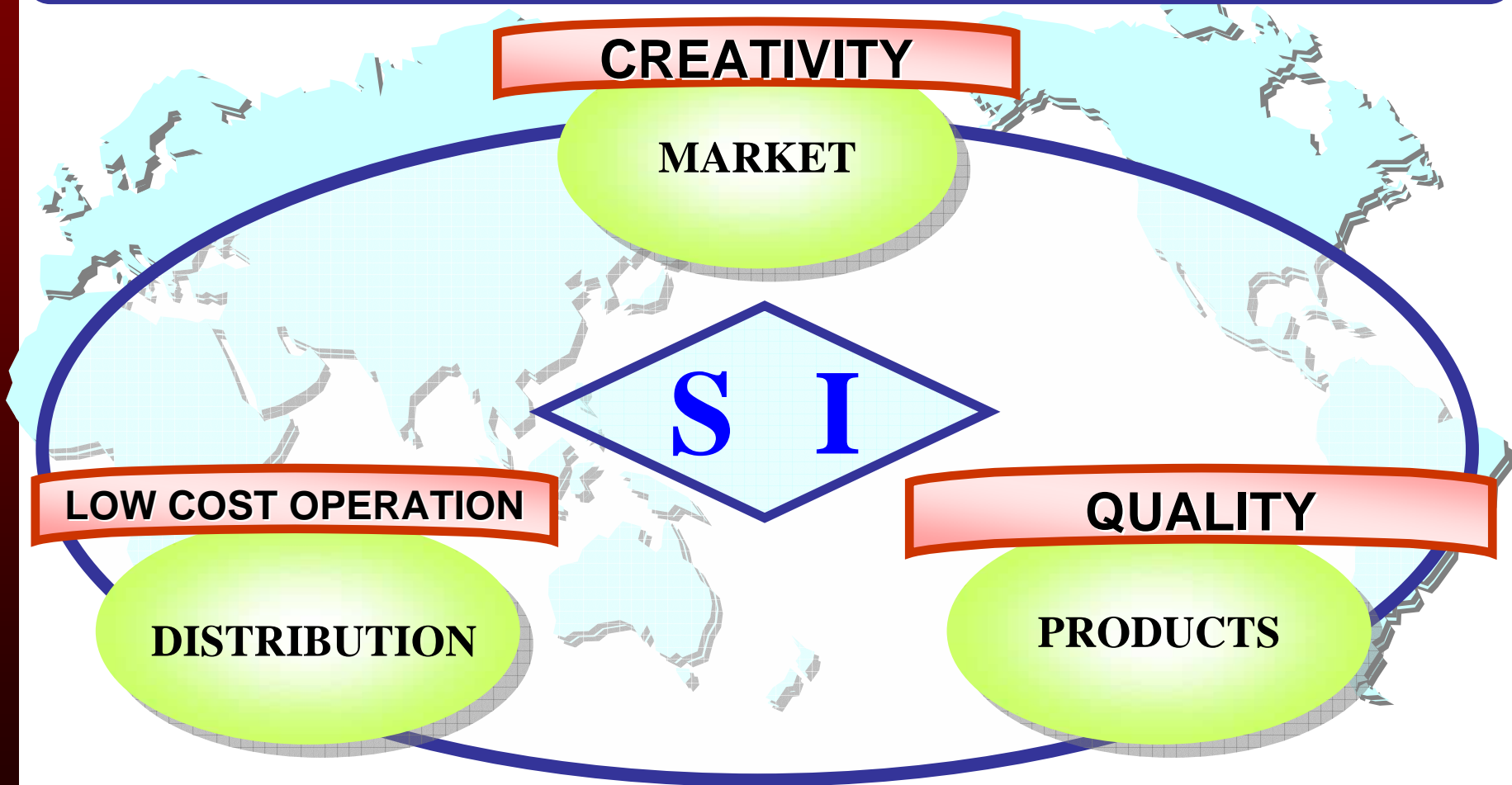
配当性向(単独)

目標値 30%

H19-3 実績 20円
H20-3 予想 15円

18-1. 目指すべき企業像

THE GLOBAL FOOD MERCHANDISER



THE GLOBAL FOOD MERCHANDISER

コーヒー・飲料部門

・原料調達から製造・カップまで
一貫型ビジネス

・子会社・関連会社との
シナジー

・海外への技術提供・
合併による現地販売

食品部門

・内外パートナーとの
高付加価値商品開発

・輸出拡大

・海外合併事業

・ 参考資料

～ 会社概要、売上高概況(単独) ～

会社概要



石光商事株式会社

社 名 : 石光商事株式会社 (S.ISHIMITSU & CO.,LTD.)
本 社 : 神戸市
代 表 者 : 代表取締役会長 代表取締役副会長 代表取締役社長
石光輝男 駒澤啓之 森本 茂

創 業 者 : 石光季男
創 業 : 1906年7月 ロサンゼルスにて
設 立 : 1951年5月
売 上 高 : 35,638百万円 (平成19年3月期連結)
経 常 利 益 : 292百万円 (平成19年3月期連結)
当 期 純 利 益 : 228百万円 (平成19年3月期連結)
従 業 員 数 : 228人 (平成19年3月末連結)
主 要 業 務 : コーヒーを中心とする食品販売事業
関 係 会 社 : 連結子会社5社、持分法適用関連会社1社

沿革



石光商事株式会社

- ◆ 1906年 : 創業者が単身渡米、ロサンゼルスにおいて食料品販売業を創業
- ◆ 1922年 : 対日貿易量の増大にともない本店を神戸に移す
- ◆ 1941年 : 戦争激化により休業。海外資産没収
- ◆ 1951年 : 貿易再開と同時に神戸にて株式会社石光季男商店を設立
- ◆ 1963年 : 石光商事株式会社と改称
- ◆ 1972年 : 東京アライドコーヒーロースターズ(株)設立(東京地区取引先との共同出資)
- ◆ 1973年 : 関西アライドコーヒーロースターズ(株)設立(関西地区取引先との共同出資)
- ◆ 1999年 : 神戸市灘区にて本社新社屋ビルが完成、移転
- ◆ 2002年 : 組織改革 チーム制の導入
店頭市場(現:ジャスダック証券取引所)に上場
- ◆ 2004年 : 人事制度改革、情報システム再構築へ着手
安全な食品の提供(研究開発室・品質保証室の強化)
- ◆ 2005年 : 新人事制度の導入
- ◆ 2006年 : 創業100周年を迎える



石光商事グループ



石光商事株式会社

関西アライドコーヒー
ロースターズ(株)(神戸)

レギュラーコーヒーの
焙煎・加工・販売
(出資比率 65%)

関西アライドコーヒーロースターズ(株)



東京アライドコーヒー
ロースターズ(株)(東京)

レギュラーコーヒーの
焙煎・加工・販売
(出資比率 39%)

東京アライドコーヒーロースターズ(株)



キング珈琲(株)
(札幌)

レギュラーコーヒーの焙煎・
販売及び食品の販売
(出資比率 94%)

キング珈琲(株)



ユーエスフーズ(株)

ユーエスフーズ(株)
(東京)

コーヒー生豆の小分け販売
(出資比率 100%)

岩屋サービス(株)

(当社物流センター内)



岩屋サービス(株)
(神戸)

運送業
(出資比率 83%)

イタリアレストラン“イバル”



ピッツェリア“バッコ”



シーカフェ(株)
(東京)

イタリアレストランの経営
(出資比率 100%)

単体実績と連単倍率



石光商事株式会社

(単位:百万円,倍)

	平成18年3月期			平成19年3月期		
	連結	単体	連単倍率	連結	単体	連単倍率
売上高	35,457	35,041	1.0	35,638	35,213	1.0
売上総利益	4,142	3,698	1.1	4,131	3,662	1.1
営業利益	378	245	1.5	269	126	2.1
経常利益	695	485	1.4	292	192	1.5
当期純利益	970	816	1.2	228	192	1.2

E P S(円)	121.43	102.14	-	28.55	24.08	-
1株当たり 配当額(円)	25.00		-	20.00		-
配当性向	20.6%	24.5%	-	70.1%	83.1%	-

H18-3期配当内訳 普通配当20円
記念配当5円

売上高概況(単独) ~ コーヒー生豆・RC・IC・紅茶 ~

- ・RC(レギュラーコーヒー)・・・ コーヒーバッグが伸長
- ・IC(インスタントコーヒー)・・・ 袋入り商品・原料用バルク商品の増加
- ・茶類・・・ 原料用紅茶等の増加

実績と前年同期比

(百万円)

	平成18年3月期			平成19年3月期		
	売上高	前年同期比		売上高	前年同期比	
		金額	増減率		金額	増減率
コーヒー生豆	4,567	851	22.9%	4,716	149	3.3%
レギュラー コーヒー(RC)	1,468	161	12.3%	1,548	80	5.5%
インスタント コーヒー(IC)	855	71	-7.7%	895	39	4.6%
紅茶他茶類等	1,519	311	25.8%	1,863	344	22.6%

売上高概況(単独) ~ イタリア食材 ~



石光商事株式会社

・輸入元であるイタリアパスタメーカー倒産・再生による影響を脱し
従前の正常な水準までほぼ回復

輸入パスタ・オリーブオイルの実績と前年同期比

(百万円)

	平成18年3月期			平成19年3月期		
	売上高	前年同期比		売上高	前年同期比	
		金額	増減率		金額	増減率
輸入パスタ	381	14	4.1%	443	61	16.1%
オリーブオイル	356	46	15.1%	372	15	4.4%
生ハム・チーズ	91	4	5.6%	62	28	-31.3%
合計	829	66	8.7%	877	48	5.9%

売上高概況(単独) ~ 冷凍水産加工品 ~



石光商事株式会社

・タコ類、イカ類 販売好調

実績と前年同期比

(百万円)

	平成18年3月期			平成19年3月期		
	売上高	前年同期比		売上高	前年同期比	
		金額	増減率		金額	増減率
エビ類	2,364	58	2.5%	2,587	222	9.4%
タコ類	902	197	28.1%	1,304	402	44.6%
イカ類	138	26	23.3%	154	15	11.3%
その他水産品	95	87	-48.0%	73	21	-22.3%
合計	3,500	194	5.9%	4,120	619	17.7%

売上高概況(単独) ~ 冷凍調理加工品 ~



石光商事株式会社

- ・既存商品の伸長(鶏唐揚げ、白身魚フライ、フランクソーセージ等)
- ・新商品の積極的開発によるアイテム数の増加

冷凍調理加工品の実績

(百万円)

	平成18年3月期			平成19年3月期		
	売上高	前年同期比		売上高	前年同期比	
		金額	増減率		金額	増減率
鶏唐揚げ	274	103	60.8%	317	42	15.5%
白身魚フライ	96	12	14.8%	124	27	28.4%
お好み焼	76	56	273.2%	71	5	-6.6%
フランクソーセージ	38	26	242.7%	57	19	50.0%
ロールキャベツ	37	5	18.9%	36	0	-2.4%
その他	288	135	88.4%	435	147	51.2%
合計	811	340	72.3%	1,042	230	28.4%

予測に関する注意事項

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。

本資料は現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

いかなる理由によっても、当社に許可なく資料を複製・配布することを禁じます。

本日は、ありがとうございました。
今後とも、ご支援・ご理解を賜りますよう、
宜しくお願い申し上げます。

石 光 商 事 株 式 会 社

経営企画室 久保・前田

TEL : 078-861-7828

FAX : 078-882-1007

URL : <http://www.ishimitsu.co.jp/>

MAIL: ir@ishimitsu.co.jp



石光商事株式会社
S. ISHIMITSU & CO., LTD.